



朝日小学生新聞 北海道新聞 茨城新聞 福井新聞 京都新聞 日本教育新聞 ヤフーニュース
ねとらぼ J-WAVE 北海道放送HBCラジオ 他

保護わんファンクラブ



保護わんの活動を支援して下さい

保護わんでは活動の継続の為のご支援をお願いしています。

保護わんの啓発活動も早8年が経過し、様々な企画がそれぞれに進行しています。

国の後援を得ているプロジェクトもありますが、資金的な援助を受けているわけではありません。

また保護わんは、学校や公的な施設へのアプローチが多く、営利に関わる企業のスポンサーを付けにくいことも、資金難の要因の一つになっています。そのため、その活動資金はつねにマイナスにあります。

そこで、マンスリーサポート型でご支援を頂くことにより、総合的に継続した活動の安定を図り、またコミュニティを持つことによって、思いを一つにするメンバーの連帯感と士気を高められればと思っています。

本当に厚かましいお願いなのですが、保護わんの活動資金として月々500円のご寄付をお願いしています。
(いつでもやめることができます)



保護わんファンクラブ
(こちらから詳細をご覧ください)

ご寄付をよろしくお願いたします
(ファンクラブとは異なるご寄付になります)

ゆうちょ銀行からのお振替の場合:
10130-89788471
他行からのお振り込みの場合:
店名018 店番018 (普)8978847
名義 シャ)ホゴケンノワンコ

保護わん® 一般社団法人(非営利型)
保護犬のわんこ

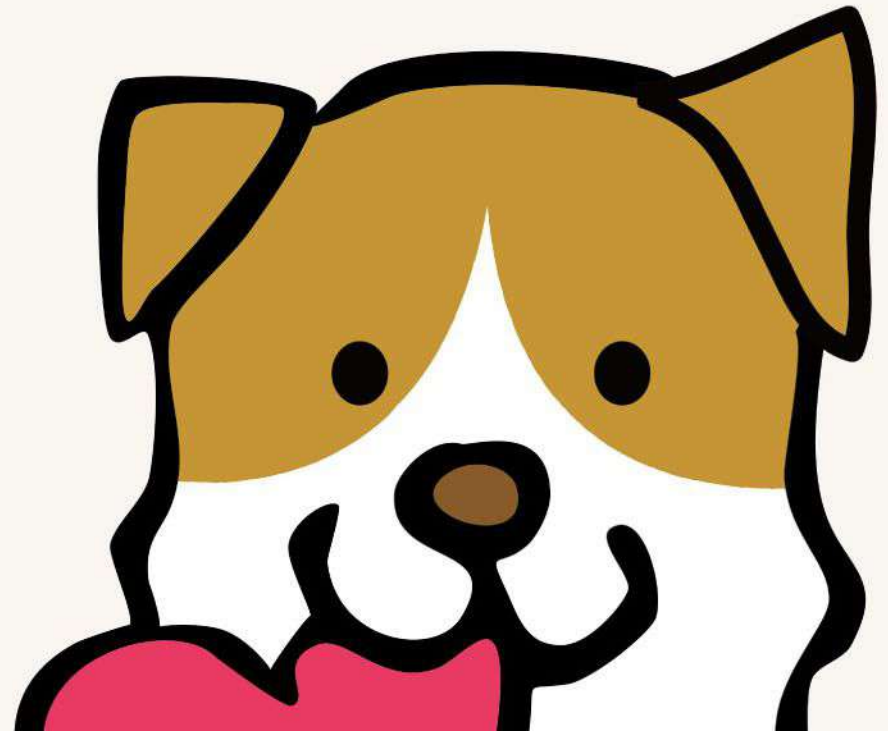
〒166-0012 東京都杉並区和田3丁目46-4
Tel 090-3002-2148
Mail hogoken@bbtv.jp
ホームページ <http://www.bbtv.jp>
Instagram http://instagram.com/hogoken_wanko

イラスト: wankot

令和6年8月15日発行

保護わん®

犬を飼う第1選択肢が保護犬になるような社会へ





保護わん®

犬を飼う第1選択肢を保護犬に!

【保護わんの思い】

私たちは、犬を飼おうと思った時にお店から買うのではなく、保護犬から迎えるという選択肢を考えてもらうことで、一頭でも多くの保護犬の命を救いたいと、啓発活動をしています。

幸せになった元気で可愛い保護犬(元保護犬)たちの存在を知ってもらい、保護犬や動物へ関心を向けたり、命の大切さを知ること「安易に犬を飼(買)ったり、無責任に捨てたりしてはいけない」という価値観を持って貰いたいと思っています。

そうして、少しずつではありますが、保護犬や動物に対する社会全体の意識と価値観を変えることで、殺処分が無い明るい日本の未来があると考えています。

殺処分をゼロに!みんなで蛇口を閉めましょう!

殺処分の数は数字の上では年々減っています。しかし、その分引き出しをする愛護団体や、個人の預かりさんの負担が増えパンク寸前になってしまっています。

保護犬を生み出す蛇口は、人々の意識と価値観(消費者行動)にあると考えます。これを変えなければ、保護犬はいつまでたっても生み出されてしまいます。

“需要”(安易に流行の犬種を飼いたいというような)を無くさなければ、悪質な繁殖や生体販売という“供給”の構造は無くならないでしょう。

*全てのお店やブリーダーの存在を否定するものではありません。

最近ではマスコミに取り上げられる機会も増えてきましたが、世間ではまだまだ保護犬の問題は知られていません。また、保護された犬に対しての引き取り手が圧倒的に少ないのが現状です。

私たち一人一人が問題を知り考えて変わらなければ、本当の意味での実行性のある法律の改正も難しいですし、犬を家族に迎える方法も一向に変わりません。

命の大切さを知ってもらい、動物との共生の大切さと素晴らしさを伝える事が、大変に重要だと考えています。

欧米に比べて大きく遅れている日本の動物愛護を、変えていきたいのです。



「国の偉大さ、道徳的発展は、その国における動物の扱い方で判る」

マハトマ・ガンジー

【保護犬の問題について】

保護犬とは、さまざまな事情(飼育放棄、野犬、迷子、ペット業界の問題など)で、保健所や動物愛護センターなどに持ち込まれた犬などのことです。その中で、新しい飼い主が見つからないなど引き取り手がいない犬は、殺処分されるしか選択肢は残っていません。

*日本では毎日33匹もの犬猫の尊い命が殺処分によって奪われています。

【保護わんとは】

私たちは「犬を飼う第1選択肢を保護犬に!」をメッセージに、保護犬の里親約900名と仲間が集まった団体です。

保護犬の「映画」や「ポスター」「写真集」や「かるた」などを製作して、保護犬を知ってもらうための啓発プロジェクトを行っています。

全国の小中学校などの教育現場や、公的な施設、民間の施設などに広がったこれらの活動の評価は高く、大きな成果を上げています。

保護わんでは、一つ大事なことを決めています。それは保護犬の問題をやさしい表現で伝えていこう、ということです。

この問題について、強烈な言葉を使ったり悲惨な現状の説明をしたり、同情をさそうような表現をすることで伝えたくはないという思いからです。

確かに保護犬の問題には悲しい現実、酷い現状もあります。しかし、その事をただ伝えるだけでは問題解決の糸口はつかめません。

そうしてしまうと、逆に恐いとか哀しいと敬遠されたり、人によってはトラウマになってしまう可能性があるからです。

一般の方に、また子どもたちにも伝えますので、なるべく違和感を感じさせることなく、特殊ではない話と言葉で、自然に目を向けてもらえる様にしたいと考えています。

【保護わんの特徴】

保護わんの大きな特徴は、忙しい主婦やお勤めの方でもいつでも何処でも、スタッフとして参加できることです。

「ボランティアに参加したいが時間の余裕がない」「寄付をすれば良いということでもない」という思いの方が潜在的に多くいる

中で、何処に住んでいても、時間の無い方でも参加をすることができます。

一人一人が個別にスタッフとなつて、LINEスタンプの使用による周知活動や、パンフレットやカードの頒布、写真集やかるたの使用、そして啓発ポスターの掲示のご協力によって啓発活動が出来ます。また、ステッカーを車に貼ったり、缶バッジやキーホルダーを身につけて周りの人に見てもらう事だけでも、保護犬の啓発の活動になります。

そのような一人一人の地道な活動が連鎖して、今、大きなうねりになろうとしています。

一度、ホームページやインスタグラムを訪ねて下さい。



保護わんのホームページ

これからの将来を担う子どもたちが、社会の価値観を変える
日本の動物愛護のリーダーになります

子どもたちにポスターを通して
命の大切さを伝え 保護犬という選択肢を知ってもらいたい

この保護犬の啓発ポスターは、東京都教育庁をはじめとする各地の959の教育委員会を通じて、全国47都道府県の21,019ヶ所の小中学校、高校、特別支援学校などへ掲示を行なっています。

令和5年からは環境省と文部科学省の後援を受けて活動しています。
*学校により掲示スペースの問題など、校長判断で掲示出来ないケースもあります。

保護犬の啓発ポスターに掲載された幸せになった元気で可愛い保護犬たちの存在を見てもらうことで、犬という身近な動物の存在を通して、命の大切さについて感じてもらい、学校やご家庭の場でも、語り合えるようなきっかけづくりになれればと考えています。

このポスターは「全国の小中学校などに命の大切さを伝える保護犬の啓発ポスターを張ろう!」というプロジェクトによって、全国の愛犬家の多くの思いをのせ、クラウドファンディングで資金が作られ、無償のボランティアによって運用されています。



教育委員会からの各学校へのポスターの掲示依頼などは、本来は国や都道府県からの公的なものに限られる場合が多いのですが、本プロジェクトでは、企画に対する深いご理解を頂きまして、民間と行政との画期的な協働として、特例的な案件として扱って頂いています。

ある教育委員会より、お言葉を頂きました。

“殺処分問題を通じた現状を理解することは、いのちの大切さについて児童生徒が主体的に学ぶ機会につながるという意味で、他の学習分野にも良い波及効果が期待できると感じております”

各学校、各教育委員会より様々なご意見とご要望を頂いております。

授業で使えるテキスト(冊子)のご要望や、保護犬の問題についての講演のご依頼など、今後の保護わんが進めていくべきものが何かを知る大きな機会ともなっています。

この各学校、各教育委員会との強力なネットワークを通して、保護わんは試行錯誤しながら成長させて頂きます。



具体的に授業で話しをする切っ掛けとなるメッセージを入れた、チラシバージョン。(表面はポスターと同じデザインです)



ポスターはAタイプ(左)とBタイプ(右)の2種類があります。
A1サイズからA4サイズまでを用意しています。

ポスターのデザインと文言は、これまでには無い明るいイメージで命の大切さを伝える学校などにも掲示しやすいコンセプトで考えられています。

ポスターの掲示は学校だけでなく、様々なお店や図書館、公民館、区役所等各種施設、また少年院や自立支援施設など、幅広く掲示して頂いています。

*この保護犬啓発ポスターのプリント用データは、保護わんのホームページから、誰でも自由にダウンロード出来るようになっています。

保護犬の映画『吾輩は保護犬である』

笑いあり涙あり 学びあり 感動あり!

全ての犬好きに観てもらいたい 珠玉のエンターテインメント!!

映画「吾輩は保護犬である」は 俳優・火野正平が演じる主人公"吾輩"の声を水先案内犬として 保護犬と人間とのポジティブな関係を描き出し その強い絆から生まれる感動のストーリーを 保護犬と人間の共生の幸せな未来に向けたメッセージを送ります

映画『吾輩は保護犬である』は難しかったり辛かったりのお話ではなく、問題を前向きな課題として捉え、観た人が幸せで温かい気持ちになれる映画です。



これまでの保護犬の映画や映像といえば、酷い現場の状況を映し出したり、悲壮感に満ちた表現で同情を買うような救いの無い表現がほとんどでした。

しかし、それでは一般の観客には目を背けて、観てもらえません。

この映画は、保護犬の問題に意識の高い方たちに観てもらうだけでなく、保護犬の存在は知っていてもよく考えてみたことの無い方や、ごく一般の方々に観てもらうために制作されました。



保護犬に関わる人々の言葉から、犬と人の絆と愛を伝え、動物を大切に扱える心を感じ、知ってもらいたいと思います。

保護犬の問題を解決したいという思いは、ただ一つ同じですから、そこに向かっていくエネルギーによってストーリーが熱く繋がります。



人間が招いている問題は、やはり生身の人間が解決していくしかありません。

観ている人は、それが他人事ではなく、人間である自分の身の回りから意識や価値観を変える必要があることに、気付けるようになります。

登場するのは、愛護活動家や団体、保護犬に関わる施設、少年院、獣医師、個人ボランティア等々---そして保護犬です。

神奈川県でのプレミア上映から始まった映画館での上映は、東京都、茨城県、沖縄県とどこも満員御礼となりました!

この後は、京都府、愛知県、埼玉県、福岡県、大阪府へと進みます。

R6.8.15現在



保護犬の写真集

飼い主と保護犬の関係、その絆と愛情が教えてくれること

暖かい家庭に迎えられた保護犬たちの今の幸せな暮らしを紹介する、日本初*の保護犬の写真集です。
*2018年4月発刊



保護犬のわんこ
写真集



風の里親になった時、娘たちは、反抗期の真っ只中。そこへやって来た可愛いけれど、全てに手がかかる小さい家族のために、いつの間にか家族全員で話し合い、協力する様になり... 10年経ち、家族の形は変わりましたが、今でも家族の中心に2匹がいます。



これまで、保護犬の写真といえば可哀想なイメージで、悲壮感を醸し出すものばかりでした。

これでは保護犬の問題に振り向いてもらえないばかりか、保護犬が汚く怖いというような負の印象を与えてしまいます。

保護犬を知ってもらい、家族として受け入れようと思える写真集を作ろうと、幸せになった保護犬とその家族の写真集を作る事になりました。



幸せになった保護犬たちの日々を綴る
素敵なストーリーたち



初めは電子書籍として作られ、学校や図書館に置いて貰おうと、クラウドファンディングを行い、集まった資金で印刷版が発行されました。

<写真集の主な寄贈先>

全国243校の小中学校、幼稚園
国立国会図書館 東京都立図書館 愛知県図書館
大阪府立図書館 沖縄県立図書館 大阪市内の全図書館
神戸市内の全図書館など、95図書館 他

*電子書籍版(Kindle)はアマゾンにて99円で販売しています。



カメラマンはなんと飼い主さん!
飼い主さんたちの手によって、その目線から捉えたからこそ撮影できた愛情あふれる保護犬の写真たち。

写真に重なって、飼い主さんの保護犬への思いのメッセージが入ります。

40匹の保護犬たちのエピソードが織りなすドラマは、見るものに感動を与えます。



保護犬のかるた

遊びの中から知る、感じる、学ぶ保護犬のこと

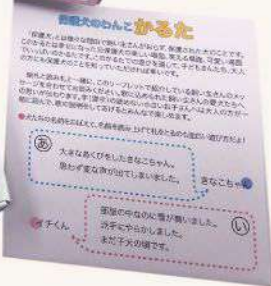
日本初*の保護犬のかるたは、保護犬(元保護犬)たちの、楽しい場面、笑える場面、可愛い場面、そんな写真の札でいっぱいの"かるた"です。

遊びながら保護犬のことを知ってもらおうアイテムとして、家族で楽しむことができるほか、幼稚園や小中学校での"かるた大会"などのイベントを行っています。

*2019年2月発売



遊びの中からの学びは、とても記憶に残りやすいと証明されていますので、期待を持ってこの日本初の保護犬のかるたが企画されました。



Instagram上での投票による選抜イベントで選ばれた札(写真)たちは、クラウドファンディングによって商品化されました。



未就学のお子さんでも、遊んでいる時には分からなくても、大人になって犬を家族に迎えようと思った時に、昔遊んだ記憶から「あの可愛い子たちとはどのような子だったのか」と思い出して周りに聞いたり、調べたりすることでしょう。

絵札の写真と読み札の歌は、どちらも飼い主さんの手によるものです

飼い主さんの一言メッセージを記載したリーフレットが付属しています。絵札と読み札と一緒に読めば、歌に込められた保護犬たちへの思いが伝わります。



保護わんでは、この保護犬かるたで沢山の子どもたちに遊んでもらうために、幼稚園や小中学校への寄贈を行っています。一般の方へはネットショップなどでの販売も行っています。

読み札には必ず絵札に写っている保護犬の名前が入っています。保護犬たちの名前を覚えて、名前を読み上げて札をとる少し高度な遊び方も出来ます。



いのちto(と)こころの教室

保護わんでは、少年院や自立支援施設で「いのちto(と)こころの教室」を行なっています。この教室は「いのちの授業」+「セラピー活動」といえるもので、子どもたちにとって、犬という身近な動物の存在の問題を通して、命の尊さや大切さ、生きている意味を感じ取り、自己への命の慈しみと思いやりを考えるきっかけづくりになる事を期待しています。

犬に触れ 命の大切さ学ぶ
東京の保護団体 北海少年院で教室



「子猫、保護猫として、約40人が命の大切さを学ぶための教室」が、同院主催の「一般公開講座」の一環として行なわれる。

入居者や職員、保護犬の存在が、子どもたちにとって、命の大切さを学ぶための教室として、同院主催の「一般公開講座」の一環として行なわれる。

また、実際の保護犬(セラピー犬)に触れて話しかけるといふセラピーで、命の暖かみを感じそのふれ合いから安心と信じ合う心を伝えたいと思っています。



さまざまな生い立ちと背景を持ち、社会から見放された過去を持つ保護犬の存在が、子どもたちにとって少なからず自らに重ね合わせ、共感できる部分もあると思われることから、この授業の意義は大きいと考えています。



保護わん「チーム北海道」のメンバー



救う選択肢があります

保護わんチャンネルの最新情報をお届けします。

連絡先: 水戸市動物愛護センター (tel: 029-350-3800) / 茨城県動物指導センター (tel: 0296-72-1200)

保護わんチャンネル(YouTube)

保護わんチャンネルでは、保護犬の問題を、色々な視点で捉えた最新の情報を発信しています。映画とも連動しており、予告編やエピソードの一部を見ることができます。



バス広告

通勤や通学で使われるバスで、毎日目にする広告として、保護犬猫のポスターを掲示しています。

茨城交通バスに広告掲示を行う活動で、令和1年から「いばらきのシッポの幸せの会」と共同で行っている活動です。



啓発広告はバスの車両側面と車内に掲示しており、誰もが目をひくインパクトのあるデザインで、学校掲示用の啓発ポスターとも印象を同じくしています。

*ポスターには、茨城県動物指導センター及び水戸市動物愛護センターの承認を頂いて連絡先を掲載しています。

救う選択肢があります

写真は保護さんの元で幸せになった子たちです

連絡先: 水戸市動物愛護センター (tel: 0296-72-1200) / 水戸市動物指導センター (tel: 029-350-3800)

TNR さくらねこ

手術済みのしるし耳カット 不妊手術をすることは猫にも人にも住みやすい社会を作ります

T(trap)捕獲して N(neuter)不妊手術して R(return)元の場所へ戻す

さくらねこは、その命を全うさせてあげる事で、飼い主のいない猫にまつわる様々な苦情や殺処分を無くしていく大切な活動です

殺処分ゼロのために

イベント

保護わんでは保護犬の愛護啓発イベントを、保護犬に全く関心の無いお客様にアピールを行うために、百貨店などの一般の会場で長期間に渡って開催しています。

もちろん、譲渡会などの会場や動物関連のチャリティイベントなどにも、積極的に参加して、保護犬の譲渡に具体的につなげるための啓発をしています。



東京都三鷹市の商店街でのイベント



博多阪急百貨店で2週間開催したイベント

保護わんが行っているのは、販売よりも啓発を目的としたイベントです。会場では大型モニターを使って映像を流したり、POPに写真やイラストを多用するなど、注目をひく様にレイアウトしています。



グッズ

グッズは身につけたり貼ったりする事で啓発になる保護犬啓発グッズを、ほぼ製作原価で販売している他、ご寄付を頂けるチャリティグッズもラインナップしています。ネットショップやイベントで販売しています。



保護犬のLINEスタンプ

日本初*の保護犬のLINEスタンプは、保護犬(元保護犬)の可愛い表情や、かっこいい姿のスタンプを作って世の中に広めることで、こんなに明るく元気で可愛い保護犬たちがたくさんいるのだと知ってもらえることが狙いです。

スタンプが使われれば使われるほど、保護犬の存在が世の中に広まります。

また、収益は活動のための資金作りにもなります。

現在、計1万セット以上を売上げています。

*2017年3月発売



LINE shop